

# The Global Risks Report 2024

## 19th Edition

INSIGHT REPORT

## Terms of use and disclaimer

This document is published by the World Economic Forum as a contribution to a project, insight area or interaction. The findings, interpretations and conclusions expressed herein are a result of a collaborative process facilitated and endorsed by the World Economic Forum but whose results do not necessarily represent the views of the World Economic Forum, nor the entirety of its Members, Partners or other stakeholders.

### World Economic Forum

91-93 route de la Capite  
CH-1223 Cologny/Geneva  
Switzerland

Tel.: +41 (0)22 869 1212

Fax: +41 (0)22 786 2744

E-mail: [contact@weforum.org](mailto:contact@weforum.org)

[www.weforum.org](http://www.weforum.org)

Copyright © 2024  
by the World Economic Forum

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise without the prior permission of the World Economic Forum.

ISBN: 978-2-940631-64-3

The report and an interactive data platform are available at <https://www.weforum.org/publications/global-risks-report-2024/>.

# エグゼクティブサマリー

『グローバルリスク報告書 2024』は、グローバルリスク意識調査（GRPS）の結果をまとめたものである。本報告書は、意思決定者が現在の危機と長期的な優先事項のバランスを取るために、3つの時間軸でグローバルリスクを分析している。第1章では、現在の最も深刻なリスク、および調査回答者が最も憂慮するリスクを2年間にわたって調査し、2年間で急速にトップ10入りした3つのリスクを詳細に分析している。第2章では、地政学、気候、テクノロジーそして人口統計学的な変化を背景に、今後10年間に顕在化するだろうリスクの上位に焦点を当て、4つの具体的なリスク展望について深く掘り下げている。本報告書は、世界的な分断が進む現状において、グローバルリスクの複雑かつ弾力性のある側面に対処するためのアプローチを検討することで締めくくられている。以下は、本レポートの主な所見である。

## 悪化する世界の見通し

2023年の出来事を振り返ってみると、多くの事象が世界中の人々の注目を集めた。スーダンからガザやイスラエルに至るまで、弱者が致命的な紛争と組み合い、記録的な暑さ、干ばつ、山火事、洪水が発生した。社会への不満は多くの国で顕著であり、二極化、激しい抗議行動、暴動、ストライキが報道された。ロシア・ウクライナ戦争やCOVID-19パンデミックの発生当初に見られたような、世界全体を揺るがすような事態はほぼ回避されたものの、長期的な見通しでは、こうした事態はさらなる衝撃を世界にもたらす可能性がある。

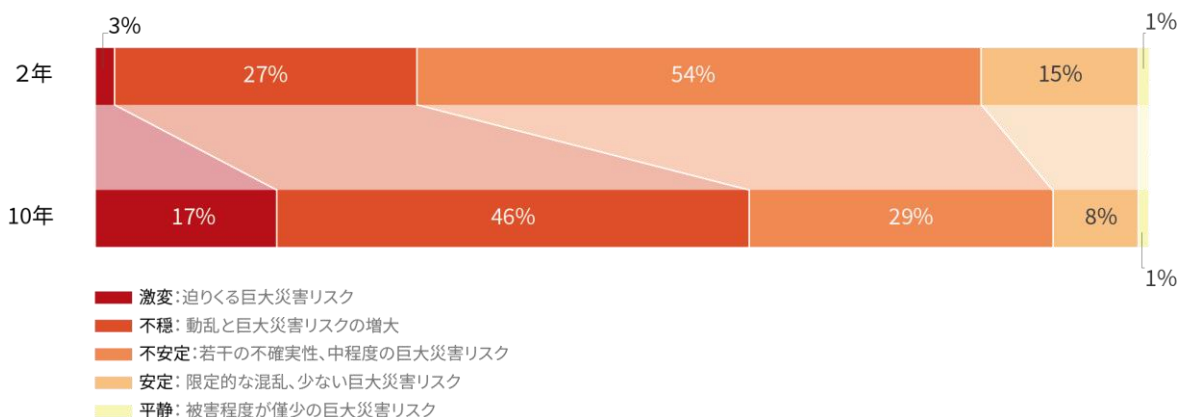
2024年に入り、2023-2024年GRPSの結果は、今後2年間の世界の見通しについて大半が否定的であることを浮き彫りにしており、それは今後10年間でさらに悪化すると予想されている（図A）。2023年9月の調査では、回答者の過半数（54%）が何らかの不安定さと世界的な巨大災害の中程度のリスクを予想しており、さらに30%は一層不穏な状況を予想している。今後10年間では、回答者の3分の2近くが激変または不穏な状況と予想しており、見通しは著しく悪化している。

図 A

グローバルリスク報告書2024年版

### 短期的、長期的なグローバルな展望

「あなたの短期的（2年）・長期的（10年）な展望に以下のどれが最も近いですか」



注記: 数値は切り上げ/切り捨てられているため、グラフの数値は100%にならない場合がある  
出典: World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2023-2024

本年度の報告書では、今後 10 年間のグローバルリスクの具現化と管理を形成する 4 つの**構造的な力**を通して、分析の文脈を整理した。これらは、世界の展望を構成する 4 つのシステム的な要素の組み合わせとその連関によって、長期間にわたって変容していく：

- 地球温暖化とそれに関連する地球システムへの影響に関する軌道（**気候変動**）
- 世界人口の規模、成長、構造の変化（**人口動態の分岐**）
- 最先端技術の発展経路（**テクノロジーの加速**）
- 地政学的パワーの集中と源泉における物質の進化（**戦略地政学的シフト**）

これらの各領域で新たな世界情勢が形成されつつあり、不確実性と変動性を特徴としている。社会がこれらの変化するかに適応しようとするにつれ、グローバルリスクに対する備えと対応能力が影響を受けることになる。

## 取り返しのつかない事態になりかねない環境リスク

環境リスクは、3 つの時間軸（現在・2 年・10 年）のいずれにおいても、引き続きリスク展望を席卷している。GRPS の回答者の 3 分の 2 が、2024 年に世界規模で重大な危機をもたらす可能性が最も高いリスクとして**異常気象**を挙げており（図 B）、エルニーニョ・南方振動（ENSO）サイクルの温暖化局面が激化し、今年 5 月まで持続すると予測されている。また、エルニーニョは、2 年間を通じて 2 番目に深刻なリスクであり、昨年のランキングと同様、長期的にはほぼすべての環境リスクがトップ 10 に入っている（図 c）。

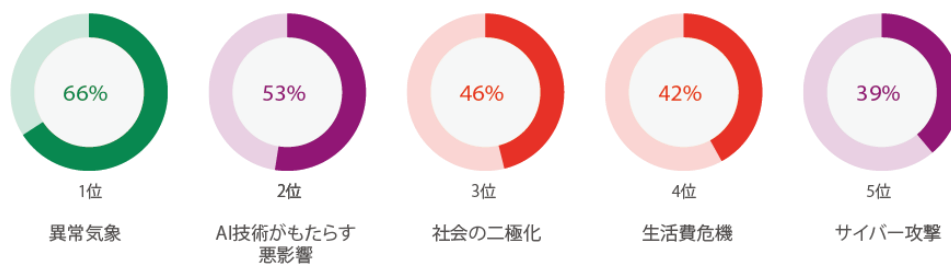
### 図 B

#### 現在のリスク

"2024 年に世界規模で重大な危機をもたらす可能性が最も高いと思われるリスクを 5 つまで選んでください"

リスク分類

- 経済
- 環境
- 地政学
- 社会
- テクノロジー



出典

World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2023-2024.

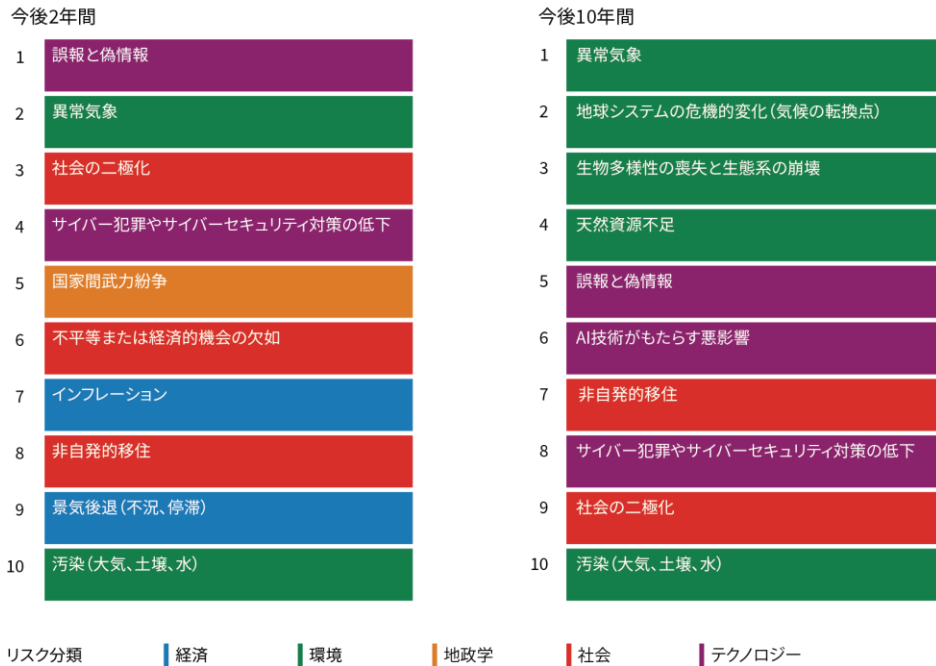


## 図 C

グローバルリスク報告書2024年版

### グローバルリスクの短期・長期的な重要度ランキング

"以下のリスクについて、2年後と10年後に起こりうる影響(深刻さ)を推定してください"



出典: World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2023-2024

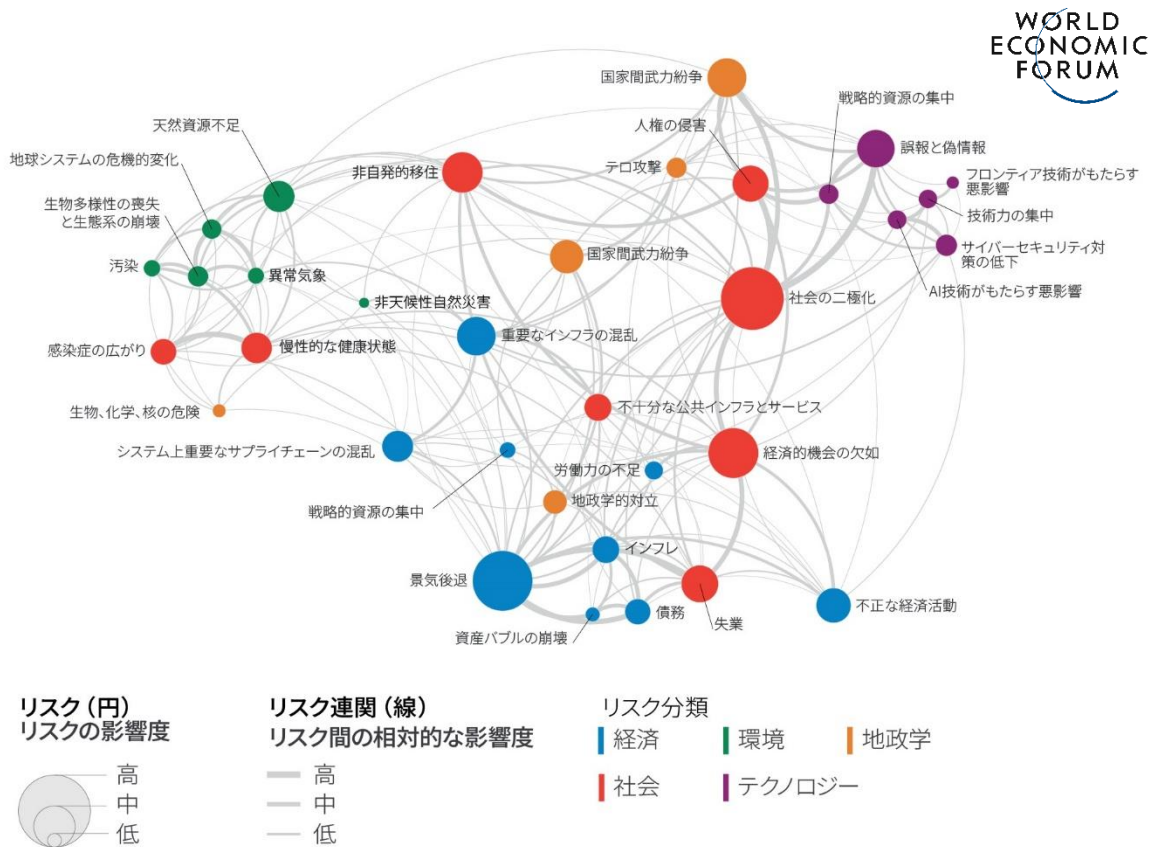
しかしながら、GRPSの回答者は、環境リスク、特に**生物多様性の喪失と生態系の崩壊**、および**地球システムの危機的变化の緊急性**については意見が分かれている。若年層の回答者は、年長層の回答者に比べ、2年間で、これらのリスクをはるかに重く憂慮する傾向があり、いずれのリスクも短期では上位10位に挙げられている。民間セクターは、これらのリスクを長期にわたる最大の懸念事項として強調しているが、これとは対照的に、市民社会や政府の回答者は、これらのリスクをより短期間で見たときに優先している。主要な意思決定者たちの緊急性に対するこのような認識の不一致は、最適な連携と意思決定がなされていないことを意味し、惑星システムに長期に渡る変化をもたらすような重要な介入のタイミングを逃すリスクを高めている。

**第2章3:A「3°Cの世界」**では、今後10年以内に少なくとも1つの「気候変動の転換点」を通過した場合の影響について考察する。最近の研究によると、一部の惑星系に長期かつ不可逆的で持続性のある変化を引き起こす閾値は、地球温暖化が1.5°Cに達するか、それ以前に通過する可能性が高いと考えられ、最近では2030年代初めに到達すると予測されている。多くの経済は、「非線形」の影響に対する備えをほとんどしていないままである。関連するいくつかの社会環境リスクの結びつきが引き金となり、炭素排出量の削減が計画通りに進まず、放出を通じて温暖化が加速して影響を増幅させ、気候変動の影響を受けやすい人々を脅かす可能性がある。潜在的な影響と必要なインフラ投資の規模が非常に大きいことを考慮すると、社会の集団適応能力が追いつかなくなる可能性があり、一部の地域社会や国は、急激な気候変動の急性・慢性両方の影響を吸収できないままとなる。

## 二極化の進行、制御できないテクノロジーリスクによる「真実」への圧力

**社会の二極化**は、現在と2年後の両時点でトップ3に入り、長期的には9位となっている。加えて、**社会の二極化と景気後退**は、グローバルリスク・ネットワーク(図D)において、多くのリスクの促進要因となり、その影響を受ける可能性があるとして、最も相互に関連し、つまり影響力のあるリスクと見なされている。

図 D グローバルリスクランドスケープ：相互関連マップ



出典：World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2023-2024

向こう 2 年間に予想される最も深刻なグローバルリスクとして浮上しているのは、国内外を問わず、社会と政治の分断をさらに拡大しようとする **誤報** と **偽情報** である（第 1 章 3 「偽情報」）。今後 2 年間で、バングラデシュ、インド、インドネシア、メキシコ、パキスタン、英国、米国を含め複数の経済圏で、30 億人近くが選挙投票に向かうと予想される中、誤報や偽情報の広範な利用やそれを広めるツールが、新たに選出された政府の正統性を損なう危険性を孕んでいる。その結果、暴力的な抗議行動やヘイトクライムから、市民の対立やテロリズムに至るまで、さまざまな不安が生じる懸念がある。

選挙にとどまらず、現実に対する認識も二極化し、公衆衛生から社会正義にいたるまで、さまざまな問題についての言論が浸透していだろう。しかし、真実が損なわれるにつれ、国内でのプロパガンダや検閲のリスクも高まるだろう。誤報や偽情報に対応するため、政府は「真実」と判断する内容に基づいて情報を統制する権限をますます強める可能性がある。インターネット、報道、より広範な情報源へのアクセスに関する自由は、すでに低下しつつあるが、より多くの国々で、情報の流れに対するより広範な抑制に陥る危険性がある。

## 低・中所得層、そして各国の経済的負担は増大傾向へ

**生活費危機**は、2024 年の見通しにおいても引き続き重大な懸念事項である（図 B）。インフレ（7 位）と**景気後退**（9 位）という経済リスクも、この 2 年間で新たに トップ 10 に加わった注目すべきリスクである（図 C）。現時点では "ソフトランディング" が優勢に見えるものの、短期間の見通しは依然として極めて不透明である。向こう 2 年間は、エルニーニョ現象から紛争激化の可能性まで、供給側の価格圧力が続く要因が複数存在する。また、金利が相対的に高い状態が長く続けば、中小企業や重債務国は特に債務不履行に晒されることになる（第 1 章 5 「経済の不確実性」）。

経済の不確実性は、大半の市場で重くのしかかるが、多くの脆弱国家にとっては、資本調達が最も大きな負担となる。気候変動や紛争の影響を受けやすい国々は、必要とされるデジタル・インフラや物理的インフラ、貿易、グリーン投資、関連する経済的機会からますます締め出されることになる。こうした脆弱な国家の適応能力がさらに侵食されれば、それに関連する社会や環境への影響が増幅することになる。

同様に、テクノロジーの発展と地政学的ダイナミクスの融合は、先進国、開発途上国を問わず、新たな勝者と敗者を生み出す可能性が高い（第 2 章 4：「AI が担うもの」）。人工知能（AI）やその他のフロンティア・テクノロジー開発の主要な原動力が、公共の利益ではなく、商業的インセンティブや地政学的な要請に留まるなら、高所得国と低所得国の間のデジタル格差は、関連する利益（そしてリスク）の分配に著しい格差をもたらすだろう。脆弱な国やコミュニティはさらに取り残され、経済生産性、金融、気候、教育、医療、そして関連する雇用創出に影響を及ぼす AI の飛躍的進歩からデジタル面で隔離されることになるだろう。

長期的に見れば、開発の進展と生活水準は危機に瀕している。経済、環境、テクノロジーのトレンドは、労働と社会的流動性をめぐる既存の課題をさらに深刻化させ、個人が収入や技能向上の機会から妨げられ、その結果、経済的地位を向上させる能力が失われる可能性が高い（第 2 章 5：「開発の終焉？」）**経済的機会の欠如**は、過去 2 年間ではトップ 10 に挙げられるリスクであったが、長期的には 11 位に下がり、グローバルな意思決定者の主要な懸念事項とならなくなっているようである（図 E）。高い雇用変動率（雇用の創出と破壊の両面）は、先進国と開発途上国の間で、あるいは先進国と開発途上国の国内において、労働市場を深く二分する可能性がある。このような経済移行がもたらす生産性の便益を過小評価すべきではないが、製造業やサービス業主導の輸出成長は、もはや開発途上国がより豊かになるための従来型の方法では実現できないかもしれない。

安定した生活を得るための個々人の道筋が狭まることは、貧困から教育や医療へのアクセスに至るまで、人間開発の指標にも影響を与えるだろう。世代間の流動性が低下し、社会契約に著しい変化が生じれば、先進国と開発途上国の双方において、社会と政治の力学が抜本的に組み替えられることになる。

## 地政学上の緊張の高まりとテクノロジーの融合がもたらす新たな安全保障リスク

**国家間の武力紛争**は、国家の脆弱性の原因となるとともに、それを助長するものとして、向こう 2 年間におけるトップリスクとして新たに位置づけられている（図 C）。大国の焦点が複数の戦線に広がるにつれ、紛争の拡大は重要な懸念となる（第 1 章 4：「紛争の増加」）。波及する脅威や国家の脆弱性の増大により、近い将来激化するリスクのあるいくつかの紛争の火種がある。

近年のテクノロジーの進歩に照らせば、これはさらに憂慮すべきリスクとなる。協調がない場合、世界的に分断されたアプローチでフロンティア技術を規制しても、極めて危険な技術の拡散を防ぐことは難しく、むしろ拡散を招く可能性がある（第 2 章 4：「AI が担うもの」）。長期的な視点では、生成 AI を含むテクノロジーの進歩によって、さまざまな非国家主体や国家主体が、マルウェアから生物兵器に至るまで、混乱や紛争を引き起こす新たな手段を構想・開発するための幅広い知識を活用できるようになるだろう。

こうした環境下では、国家、組織犯罪、民間武装勢力、テロリスト集団の線引きはさらに曖昧になるだろう。さまざまな非国家勢力が弱体化したシステムを利用し、紛争、脆弱性、腐敗、犯罪のサイクルを形成していくだろう。**不正な経済活動**（31 位）は、過去 10 年間のリスクの中では最も低い順位ではあるが、過去 2 年間および過去 10 年間のリスクの中で上位に位置する多くのリスクがその引き金となっている（図 D）。経済状況の悪化は、テクノロジーの進歩、資源の逼迫、紛争と相まって、より多くの人々を犯罪に向かわせ、軍事化し、過激にさせ、組織犯罪の標的や活動をより国際化させる可能性が高い（第 2 章 6：「犯罪の波」）。

より広範な勢力による紛争の国際化の動きは、より深刻で長期化する戦争と、甚大な人道危機につながる恐れがある。複数の国家が代理戦争、そしておそらくは直接戦争に関与することによって、AI の統合を通じて意思決定までの時間を短縮する動機付けが強まるだろう。紛争における意思決定（標的を自ら選択し、目的を決定すること）にこうした機械知能が入り込めば、向こう 10 年間で、不測の事態や意図的な事態の拡大が起きるリスクが大幅に高まるだろう。

## イデオロギーと地経学上の隔たりによる今後のガバナンス崩壊

国際舞台における権力の多極間およびグローバル・ノースとサウスとの溝が深まれば、国際的なガバナンスのメカニズムが麻痺し、大国の関心と資源が差し迫ったグローバルリスクから遠ざかることになる。

GRPS の回答者の 3 分の 2 は、向こう 10 年間のリスクに向けた国際協調の政治的展望について、中堅国や大国が地域ごとの規則や 規範を設定し、適用し、争うような多極化または分断化した秩序に直面すると感じている。向こう 10 年間、北半球の支配が続くことへの不満が高まるにつれ、進化する国家群が複数の領域にわたって国際舞台でより重要な影響力を求め、その軍事力、テクノロジー、経済力を誇示するようになるだろう。

グローバル・サウスの国々が気候変動の影響を受け、パンデミック時代の危機の後遺症や大国間の地経学的な亀裂を背負う中、歴史的に見ても異なる国同士の連携や政治的同盟が強まり、ロシア・ウクライナ戦争、中東紛争、台湾をめぐる緊張など、利害が大きく絡む紛争地域への影響も含め、安全保障の力学がますます形成される可能性がある（第 1 章 4：「紛争の勃発」）。暗躍する国家を孤立させるための結束した取り組みは、ますます空回りになる可能性が高い。一方、紛争を「取り締まる」のに効果がないことが明らかになった国際的なガバナンスや平和維持の取り組みは、傍流に追いやられる可能性がある。

世界情勢における勢力均衡の変化は、特に紛争の国際化（枢軸国が政治的同盟国を集めるために、支援や資源を提供する傾向が強まる）において顕著であるが、それだけでなく、より広範なグローバルリスクの長期的な軌跡と管理も形成していくだろう。例えば、大国がその影響力を確固たるものにするためには、高いレベルで集約されたテックスタックへのアクセスがさらに重要なソフトパワーの要素となる。しかし、重要な鉱物から高価値の知的財産や資本に至るまで、上流のバリュー・チェーンで競争上の優位性を持つ他の国々は、こうした経済資産を活用して先端技術へのアクセスを獲得し、新たな権力の力学をもたらすことになるだろう。

## 分断された世界でグローバルリスクに備えるための取り組みの機会

分断され、流動する世界の中で、協調はますます大きな圧力に晒されることになるだろう。しかし、グローバルリスクの影響を大幅に軽減できるような、地域内または国境を越えて、個人または協働して実行できる重要な機会が残されている。

投資と規制を有効活用した地域密着型の戦略は、避けられないリスクの影響を軽減することができる。将来を優先し、研究開発に注力する取り組みを通じて芽生えた画期的な試みは、世界をより安全な場所にする一助となる。個々の市民、企業、国の集団行動も、単独では微々たるものに見えるかもしれないが、それが極限まで高まれば、グローバルリスク低減への針を動かすことができる。最後に、分断化が進む世界であっても、人間の安全保障と繁栄にとって重大なリスクに対しては、国境を越えた大規模な協力が不可欠であることに変わりはない。



これからの10年は、私たちの適応能力を最大限に伸ばすような、大きな変化の時代を迎えることになるだろう。今後10年の間に、まったく異なるさまざまな将来像が予想できるが、今私たちがグローバルリスクに取り組むことより、はるかに明るい未来を切り開くことができるはずだ。

図 E

グローバルリスク報告書2024年版

グローバルリスクの短期・長期的な重要度ランキング

"以下のリスクについて、今後2年間で10年間に起こりうる影響(深刻さ)を推定してください"



今後2年間

1	誤報と偽情報
2	異常気象
3	社会の二極化
4	サイバー犯罪やサイバーセキュリティ対策の低下
5	国家間武力紛争(戦争、代理戦争)
6	不平等または経済的機会の欠如
7	インフレーション
8	非自発的移住
9	景気後退(不況、停滞)
10	汚染(大気、土壌、水)
11	地球システムの危機的変化(気候の転換点)
12	技術力の集中
13	天然資源不足
14	地政学上の対立
15	人権の侵害
16	負債(公的債務、企業債務、家計債務)
17	域内暴力(市民ストライキ、暴力、クーデター)
18	不十分な公共インフラとサービス
19	システム上重要なサプライチェーンの混乱
20	生物多様性の喪失と生態系の崩壊
21	検閲と監視
22	人材・労働力不足
23	感染症の広がり
24	戦略的資源の集中
25	重要なインフラの混乱
26	資産バブルの崩壊
27	慢性疾患と健康状態
28	不正な経済活動
29	AI技術がもたらす悪影響
30	失業
31	生物、化学、核の危険
32	テロ攻撃
33	非天候性自然災害
34	フロンティア技術がもたらす悪影響

今後10年間

1	異常気象
2	地球システムの危機的変化(気候の転換点)
3	生物多様性の喪失と生態系の崩壊
4	天然資源不足
5	誤報と偽情報
6	AI技術がもたらす悪影響
7	非自発的移住
8	サイバー犯罪やサイバーセキュリティ対策の低下
9	社会の二極化
10	汚染(大気、土壌、水)
11	経済的機会の欠如
12	技術力の集中
13	戦略的資源の集中
14	検閲と監視
15	国家間武力紛争
16	地政学上の対立
17	負債(公的債務、企業債務、家計債務)
18	人権の侵害
19	感染症の広がり
20	慢性疾患と健康状態
21	不十分な公共インフラとサービス
22	暴力(市民ストライキ、暴力、クーデター)
23	重要なインフラの混乱
24	フロンティア技術がもたらす悪影響
25	システム上重要なサプライチェーンの混乱
26	生物、化学、核の危険
27	失業
28	景気後退(不況、停滞)
29	人材・労働力不足
30	資産バブルの崩壊
31	不正な経済活動
32	インフレーション
33	非天候性自然災害
34	テロ攻撃

リスク分類 | 経済 | 環境 | 地政学 | 社会 | テクノロジー

出典: World Economic Forum Global Risks Perception Survey 2023-2024

The logo for the World Economic Forum, featuring the words "WORLD ECONOMIC FORUM" in a bold, sans-serif font. A thin black line forms a partial circle around the text, starting from the top right and curving under the word "FORUM".

# WORLD ECONOMIC FORUM

---

COMMITTED TO  
IMPROVING THE STATE  
OF THE WORLD

The World Economic Forum, committed to improving the state of the world, is the International Organization for Public-Private Cooperation.

The Forum engages the foremost political, business and other leaders of society to shape global, regional and industry agendas.

World Economic Forum  
91-93 route de la Capite  
CH-1223 Cologny/Geneva  
Switzerland

Tel.: +41 (0) 22 869 1212  
Fax: +41 (0) 22 786 2744  
contact@weforum.org  
www.weforum.org